

# かけ橋

まだ見ぬ君へ…

十二月九日は「障害者の日」。この日の記念事業として、「ゆめのくにのおんがくかい」が開催されます。今回は、この記念事業の実行委員会の皆さんを紹介いたします。

## ゆめのくにのおんがくかい実行委員会

「ゆめのくにのおんがくかい」は、障害を持つ人たちが中心となって、自分たちの手でつくり上げる音楽会です。ことしの実行委員の皆さんは、障害を持つ人たちを中心に初の一般公募により集まりました。「自分たちの手で音楽会を盛り上げていきたい」と、やる気に満ちあふれた人たちがばかりで、十二月三日の「ゆめのくにのおんがくかい」に向けて着々と準備を進めています。

実行委員の仕事は多く、ポスターやパンフレットづくり、会場整備、駐車場の確保や整備な



▲昨年行われた「ゆめのくにのおんがくかい」



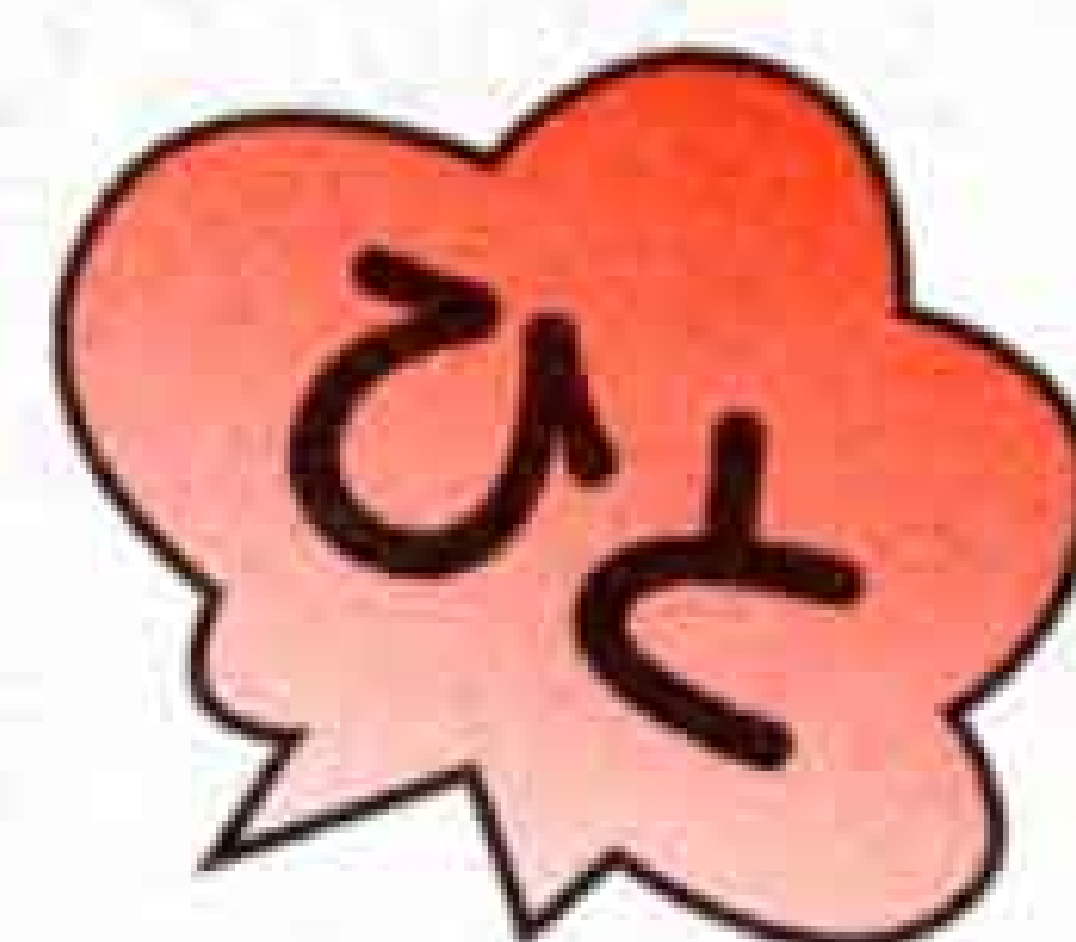
▲実行委員会の皆さん

どさまさま。支援スタッフやボランティアの人たちと一緒に、当日の音楽会を心待ちにしながら、楽しく仕事をしています。

実行委員会副委員長の紅林友子さんは「参加者の一人一人が主役になって、見に来てくれた皆さんにも一緒に楽しんでもらえるような、会場が一つになれる音楽会になったらいいなと思います。今まで頑張って練習してきた成果を一生懸命に発表する皆さんの姿は、本当に明るく楽しそうで、とても生き生きしているんですよ。一人でも多くの人に来てもらって、頑張っている姿を見てもらいたいと思います。そして、これがきっかけとなり、障害を持つ人たちがどどん外に出ていって、社会参加ができるようになっていったらうれしいですね」と話してくれました。

ゆめのくにのおんがくかい

↓P 16へ



チューバ奏者として活躍中の

望月 洋次郎 さん  
(横割 4)



**チ** ユーバは、音楽の低音部分を支える一番大きな金管楽器。中学生のとき、吹奏楽部の先生に勧められたのがきっかけでチューバを始めた望月さんは、音楽の土台を作るおもしろさに引かれ、それ以来チューバを演奏し続けています。

現在はユーフォニウム・チューバーアンサンブルのほか、静岡交響楽団に所属。アンサンブルではことし、全国で初めて行われた「ユーフォニウム・チューバー四重奏コンクール」において見事一位に輝きました。また、音楽指導法などを榊原達教諭から学んでいて、母校の東海大学付属翔洋高校などで講師として活躍しています。

富士市では、十一月二日の富士市民大学で、講師として優れた演奏を披露しました。

望月さんは「今回の市民大学をきっかけに、市内でも活動の幅を広げ、富士市を拠点に全国

各地で活動をしていきたいです。自分の演奏を聴きたいと思ってくださる人がいたら、どこへでも出向いて演奏をしたいですね。これから、音楽指導法の勉強も力を入れていきたいと思っています。後輩たちに、自分の持っているものを教えることで逆に教えられることも多く、勉強にもなります。また、自分自身も、指導力のある先生方のもとで勉強できることを、とてもうれしく思っています。

チューバは、オーケストラでは出番の少ない楽器。活動の場を探している人は大勢いると思います。そういう人たちとも演奏活動がしていけたらいいなと思います」と話してくれました。

